



東秩父村長 高野 貞宜氏

村長のメッセージ

季節ごとに様々な花々が咲き誇り、緑豊かな山並と清流に恵まれた本村は、ユネスコ無形文化遺産に登録された1300年の歴史を持つ手漉き和紙「細川紙」の産地として有名です。

村では、この手漉き和紙技術の伝承と手作り体験のできる施設「和紙の里」を整備し、小学生の社会科見学を始め、毎年多くの方においでいただいています。

近年、人口減少、少子高齢化のさらなる進行など多くの課題を抱えるなか、「子育て支援」「移住・定住促進」「防災・減災の強化」「手漉き和紙、細川紙技術の保存・継承」など様々な地域の課題解決に向けて全力で取り組んでまいります。

はじめに

東秩父村は埼玉県の西部、比企丘陵と秩父山地が出会う場所に位置する、県内唯一の村である。1956年、大河原村と槻川村が合併し、秩父盆地から山を隔てた東側にあることから東秩父村と名付けられた。北は寄居町、東は小川町、南はときがわ町と秩父市、西は皆野町に接している。

外秩父山地などの山々に囲まれ、村域の8割が山林で、中央を清らかなつぎがわ槻川が流れるなど、豊かな自然に囲まれている。四季折々の景観やアクティビティを楽しみに訪れる人が多い。春には里山の斜面を花桃が埋め尽くし、「桃源郷」のようだ。夏には、槻川の上流にある「ヤマメの里親水公園（表紙写真）」で溪流遊びやバーベキューを楽しめ、秋から冬にかけてはミカン狩りも人気で、家族連れなどにぎわう。ハイキングは一年を通して楽しめる。

また、東秩父村はユネスコ無形文化遺産に登録された和紙「細川紙」でも有名であり、和紙に関する

る学びや体験の場も設置されている。村の特産品は、和紙で作られた製品のほか、花き、しいたけ、こんにゃくなど、大地からの恵みが多い。

村内に駅はないものの、JR八高線・東武東上線小川町駅から村役場へはバスで約20分と、アクセスがよい。

★ 東秩父村和紙の里

東秩父村はユネスコ無形文化遺産に登録された和紙「細川紙」の産地であり、長い歴史の中で日本人の生活や文化に深く浸透してきた。国内産こうぞ楮を原料とし、伝統的製法と用具を用いて作られる強靱で丈夫な手漉き和紙「細川紙」は、その製法技術が1978年に国の重要無形文化財に指定された。2014年には、「細川紙」の伝統的な技術は、岐阜県の本美濃紙、島根県の石州半紙とともに、ユネスコ無形文化遺産に登録された。

「細川紙」は書道用の半紙や版画紙、障子紙や掛軸の裏紙、また和傘、ちょうちん、紙の器など、その用途は多岐にわたる。和紙の強靱さや高い保存性は、100年の使用にも耐えられるもので、その丈夫さは海外でも高く評価されている。

村では、伝統産業である手漉き和紙の製造、販売、技術後継者の育成、木材需要の拡大を通じた地場産業の振興、地域の活性化を図るため、体験型交流施設「東秩父村和紙の里」を1984年に開設した。2016年10月には「道の駅 和紙の里ひがしちちぶ」



「道の駅 和紙の里ひがしちちぶ」

東秩父村概要

人口(2025年4月1日現在)	2,385人
世帯数(同上)	1,042世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	58.9歳
面積	37.06km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	13所
製造品出荷額等(同上)	13.3億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	22店
商品販売額(同上)	7.4億円
舗装率	31.1%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

●関越自動車道 嵐山小川ICから村役場まで約15km

しちちぶ」として道の駅に登録され、今では県内外から年間約48万人もの人が訪れている。

施設では手漉き和紙体験やそば・うどん打ち体験ができ、和紙に関するワークショップなども開催される。また、和紙製品などの特産品や農産物も販売している他、そば・うどんやおやきなどの村の味も楽しめ、観光の拠点となっている。

新庁舎の建設

現在の本庁舎は、建設後54年が経過し、建物や設備の老朽化に加え、施設が手狭になっていることや、バリアフリー対応、防災拠点としての機能、増大する保全費用等、さまざまな課題を抱えていることから、建て替えが決まった。

庁舎の建て替えに合わせ、老朽化が目立つコミュニティセンター「やまなみ」の機能を集約するとともに、図書館も併設するなど、複合施設とする計画だ。新庁舎は「安全で快適な魅力あふれるにぎわい創出拠点」を基本理念として、村民や職員の安心・安全を守る災害に強い拠点とする。村民にとっては、サービスに優れ、親しみやすい庁舎、職員にとっては、機能的で働きやすい庁舎を目指している。建物の構造は鉄骨造であるが、扉や家具には地元産の木材を使用する予定だ。

新庁舎は2027年1月に完成予定。地域のにぎわいと交流を促す、新たな「村の顔」に期待したい。

東秩父村への移住促進

近年、全国的に少子高齢化が進むなか、東秩父村にも影響が及んでいる。2020年実施の国勢調査では人口が2015年に比べて206人(7.1%)減少した。村は、新たな住民を呼び込むため、移住促進施策に力を入れている。その柱となるのが「東秩父村移住体験施設MuLife(ムライフ)」である。

MuLifeは村での暮らしをおためし体験できる施設で、移住希望者が実際の村での生活や村民との交流を通じて「暮らしのリアル」を感じることができる。築80年の古民家を改修したこの施設は、木のぬくもりを感じられる落ち着いた空間だ。滞在中に行われる地元住民との交流イベントなどへの参加を通じて、村への移住に対する不安を解消し、将来の定住につながることを期待される。

MuLifeでの体験を通して、地域に根差した新たなライフスタイルが見つかるかもしれない。

(太田富雄)



「東秩父村移住体験施設MuLife(ムライフ)」の内部の様子